

重文真鍋家に現存する「田辺家系譜」によると、源平屋島の戦いのすこし前の、元暦元年(1184)六月、安徳天皇をより安全な地に移すために、阿波から山伝いに伊予の切山に潜入し、文治元年(1185)正月までの半年間、この切山に隠れ住んで

【切山の平家伝説】



『第195回切山にこにこ市の状況』(H25.7.14 撮影)

いた。その時、守護に当たった五士は、

一士 田辺太郎・平清国

・ 田辺家の祖 下谷の田辺神社



二士 真鍋次郎・平清房

・ 真鍋家の祖 袖野の真鍋神社



三士 参鍋三郎・平清行

・ 参鍋家の祖 西峰の参鍋神社



四士 間部藤九郎・平清重

・ 間部家の祖 中谷の間部神社



五士 伊藤清左衛門国久

・ 伊藤家の祖 古野の伊藤神社



で、今日の切山の先祖に当たる人々といわれている。その頃、屋島では決戦を前に安徳帝を長門に移すこととなり、平知盛、平教経らが切山に幼帝を迎えにこられ、切山で守護に当たっていた五士は讃岐の須田ノ浦まで見送りに行ったが、阿波の田内氏がねがえたことを風聞し、

田内氏をたおそうと阿波に出向き、戦い破れ命からがら切山に切り上げて来て、代々この地に住みつき、切山開拓の人となつて行ったという。

これらのことを国指定重要文化財・真鍋家住宅に設置されている平家遺跡案内ロボット霧山侍が説明している。

【国指定重要文化財】

【真鍋家住宅】



国指定重要文化財の真鍋家住宅

切山に潜入した五士の中の